

第6学年「家庭」学習指導案

授業者 築地 晶子

2月15日（土） 4階家庭科室 10：00～10：40 （話し合い11：00～11：45）

1 題材名「持続可能な社会と私」～お弁当作り～

2 題材について

これから子どもたちが生きていく未来は、ますます持続可能な社会について考え、向き合っていくことが求められる。本題材は、小学校2年間の家庭科学習を貫くものと位置付ける。自分が置かれる持続可能な社会の中で、生活を見つめ価値観を問い直し、より良く、より自分らしく生活を更新していく姿を目指す大題材とする。題材の集大成として、各自が決めた“家庭科”と“持続可能な社会”的両方に関係するテーマについて、プロジェクト型活動に取り組む。これまで家庭科で考え、取り組んだことと、持続可能な社会に関わる自分の関心や課題意識が高いことを合わせて選択し、その課題解決を検討する。

一方、食領域については「一食分の食事」について考えることが、小学校家庭科の集大成である。そこで、大題材「持続可能な社会と私」の中に小題材「お弁当作り」を設定し、食に関する既習事項を生かしながら、持続可能な社会に対する思いを込めた弁当の献立を立て、調理に取り組む。中学校進学後は、昼食が弁当になる子が多く、自分で用意する機会も考えられるため、遠くない未来の自分の生活を思い描きながら取り組むようにする。

3 学習指導計画（2時間目／全6時間）

第1次 「お弁当作り〔計画〕」	… 本時2／3時間
・献立を構成する要素やお弁当に合うおかずについて考える。	
・お弁当の献立について話し合い、考える。（本時）	
・調理計画を立てる。	
第2次 「お弁当作り〔調理実習〕」	… 2時間
第3次 「ふり返り」	… 1時間

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

「持続可能な社会」について学んだり、考えたりしたことを生かしながら、食品の栄養的特徴が分かり、料理や食品を組み合わせて、栄養バランスが整ったお弁当の献立を考える。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. お弁当の献立について、工夫するポイントを確認する。 ・栄養バランスが整っているか、3つの食品グループで確認しよう。 2. ファミリーで話し合う。 ・卵焼きに小魚を混ぜて焼いたら、無機質を摂ることができるよ。 ・ジャーマンポテトもマッシュポテトは、調理法は違うけれど、どちらもジャガイモだから、どちらか片方だけにしよう。 ・規格外野菜を使っても、細かく切ってしまえば見た目は気にならないよ。 ・どんな野菜でも作れる野菜炒めをおかずにしていいんじゃないかな。 3. 全体で意見交流をする。 ・私たちのファミリーは、人参をゆでてサラダにします。人参以外にも、ブロッコリーやキャベツでも、同じ調理法でサラダに使います。	・例を示すなどして、調理法や食材が重なると、一食分の食事として食べにくいうことが想像できるように伝える。 ・持続可能な社会に対する工夫は、発問や呼びかけが指示的にならないようにする。 ・規格外野菜の配達サービスを紹介し、その良さと注意点を理解できるようにする。 ・栄養バランスチェックシートを活用して、3つの食品グループがそろっていることを確認し、五大栄養素についても意識できるようにする。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

「持続可能な社会と私」という大題材における“プロジェクト型活動”と、その中に「一食分の食事の工夫（栄養を考えた食事）」を位置付けることなど、持続可能な社会について考える家庭科のカリキュラム・マネジメントについて、子どもの学びの様子や実態から考えたい。